

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network Now

2019 No.525

9 / 1

JART情報
<http://www.jart.jp>

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階
TEL. 03-5405-3612 FAX. 03-5405-3613



2019年度 第2回理事会 開催される



2019年7月7日(日)、本会事務所で2019年度第2回理事会が開催された。出席者数は22人であり、本理事会は成立した。

初めに、中澤会長より3つの話があった。1つ目は、診療放射線技師学校養成所カリキュラム等改善検討会でワーキンググループが発足され、日本医学放射線学会および全国診療放射線技師教育施設協議会との折衝の末、102単位で折り合いが付き、現在「画像診断」の名称を「臨床画像学」として提案していること。2つ目は、医師のタスク・シフティング推進に関する厚生労働省とのヒアリングが予定されているため、各都道府県からの提案を集約した。新たな項目が業務拡大となった場合には、現行の統一講習会受講修了者が優先的に参加できるよう進める方針であること。3つ目は、畦元将吾氏が平成29年衆院選の自民党比例代表中国ブロック名簿で次点であったが、繰り上げ当選が濃厚になったことについてであった。

主な議題は「JARTIS運用の業者選定について」「第36回学術大会ポスターについて」「江間賞・学術奨励賞について」「被ばく相談者の社会活動カウントについて」「JART委員任命について」「会誌目次案・Network Now台割案について」「入退会者・除籍者・免除者の承認について」「タスク・シフティング推進に関するヒアリングについて」であった。

報告事項は「執行理事報告」「会員動向報告」「月次決算報告」「学術教育委員会報告」「2019年度学術研究助成金について」「新生涯教育システム委員会報告」「医療放射線安全管理責任者講習会について」「国際委員会報告」「編集委員会報告」「広報委員会報告」「調査委員会報告」「会員情報システム委員会報告」「災害対策委員会報告」「統一講習会実施運営委員会報告」「診療報酬政策立案委員会報告」「医療安全対策委員会報告」「入会促進委員会報告」「人材育成委員会報告」「第35回埼玉学術大会について」「地域理事報告」「医療被ばく



低減施設認定更新報告」「臨床実習指導施設登録報告」「委員会報告」であった。

議題の「JARTIS運用の業者選定について」では、小田理事および加藤課長から情報システムの刷新に関する業者の機能および費用などの詳細な説明の後、業者の提案があった。「被ばく相談者の社会活動カウントについて」では、被ばく相談に関するカウント付与条件の変更について提案された。「江間賞・学術奨励賞について」では、表彰委員会で承認された対象者が報告された。「タスク・シフティング推進に関するヒアリングについて」では、冒頭の中澤会長のあいさつでも触れられた、医師のタスク・シフティング推進に関するヒアリングに向けて作成した資料の説明が熊代副会長よりあった。審議の末、いずれも賛成多数で承認された。

報告事項の「医療放射線安全管理責任者講習会について」ではプログラム案が示された。「診療報酬政策立案委員会報告」では、本会が作成した令和2年度診療報酬改定に関する要望書の内容について説明があった。

最後に、江田総務理事より今後のスケジュールの確認があり、本理事会は終了した。

本理事会の詳細な内容は、2019年度第2回理事会議事録(抄)を参照されたい。

第10回 役員・事務職員ワークショップ 開催される

2019年7月6日(土)・7日(日)の2日間にわたり、今回で10回目となる役員・事務職員ワークショップが本会事務所で開催された。ワークショップは、中澤会長の開会あいさつから始まり、熊代副会長、佐野副会長、小田理事をファシリテーターとして、理事および事務職員を3グループに分け、それぞれのテーマについて話し合いが行われた。今回のテーマは、A班:「会員サービスに向けた方策」、B班:「働き方改革(宿直体制から三交代制勤務)の方策」、C班:「アンケート調査の課題と普及に向けての方策」であった。KJ法による問題点の抽出および2次元展開法により意見をまとめ、全体で発表・意見交換を行った。

A班:「会員サービスに向けた方策」では、事務局の組織体制や事業の優先度決定などについて重要度・緊急度が高いとされた。また電話自動振り分けシステムの導入や会費納入の電子決済化、ホームページやメールマガジンの活用およびアプリの連動など、時代に見合った方法でサービスの向上を図る提案もされた。

B班:「働き方改革(宿直体制から三交代制勤務)の方策」の中では、「医師、看護師等の宿日直許可基準について」(基発0701第8号)が取り上げられ、業務実態調査に基づく現状分析について重要度・緊急度が高いとされた。施設により規模や業務内容が異なることを前提に、会員および施設へのサポートや行政に対して本会が行うことができる働き掛けが



検討された。

C班:「アンケート調査の課題と普及に向けての方策」では、これまでに実施したアンケート調査の傾向や反省点なども考慮された。最も重要度・緊急度が高い項目には広報の充実化が挙げられた。また運用面の充実化および結果分析の充実化も検討され、アンケートの回答者と実施者のそれぞれに視点に向けた具体的な提案があった。

各班で各テーマにおける現在の状況と課題を考察し、より良い事業を実現させるための方策について活発な質疑および意見交換がされ、盛会のうちに終了した。

本ワークショップの詳細な内容は、本会会誌に掲載する予定である。



JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

2019年度 新任会長会議 開催される

2019年7月20日(土)、本会事務所会議室で2019年度新任会長会議が開催された。本会から中澤会長、佐野副会長、熊代副会長、小田理事、藤井理事、江田理事の6人が出席した。各県からは山形県放射線技師会 佐藤会長、愛知県診療放射線技師会 中村会長、兵庫県放射線技師会 後藤会長、鳥取県診療放射線技師会 岡村会長、愛媛県診療放射線技師会 水口会長の5人の方々が出席した。

初めに、中澤会長より3つの話があった。1つ目は、医師の働き方改革に伴う診療放射線技師のタスク・シフティングについて、厚生労働省によるヒアリングが行われたこと。2つ目は、技師法改正案について、立法府への働き掛けを活発に行うために地域技師会と力を一つにして臨んでいきたいこと。3つ目は、畦元将吾氏が国会議員に就任され、ようやくわれわれの仲間が国政に参画することになった。これを機に本会の方針を国政に働き掛けていきたいとのことであった。

続いて、各新任会長と本会役員の自己紹介が行われ、会議が進行された。

内容は「JARTの事業について」「医療放射線安全管理責任者講習会について」「タスク・シフティング推進の本会の考え方について」「地域における養成校設立と業務拡大に伴う統一講習会について」「アンケート調査について」「都道府県との業務委託契約について」「表彰規程とJART執行理事出張規程について」「新任会長からの要望について」であった。

「JARTの事業について」では、中澤会長より本会の10の政策(養成教育における四年制大学の必要性、医学物理士の在り方、医療安全のための適切な管理体制の構築など)の説明がされた。「医療放射線安全管理責任者講習会について」では、小田理事より10月に開催予定の講習会内容について説明がされた。「タスク・シフティング推進の本会の考え方について」では、熊代副会長よりRI薬剤投与における抜針・



止血やCTCにおける二酸化炭素の送気など、具体的な内容について説明がされた。「地域における養成校設立と業務拡大に伴う統一講習会について」では、佐野副会長より専門学校の設置認可について説明がされ、実例を基に診療放射線技師の大学養成教育の必要性が述べられた。また中澤会長より、大学養成教育について本会の方針を各県の行政府にご理解いただけるよう協力要請がされた。「アンケート調査について」では、熊代副会長より今までの実績について資料を基に説明され、今後の活動予定と協力について要請がされた。「都道府県との業務委託契約について」では、小田理事より説明がされた。「表彰規程とJART執行理事出張規程について」では、資料を基に江田理事より説明がされた。

最後に、各新任会長から本会への希望・要望の意見が出された。特に多かったのは医療放射線安全管理責任者講習会の地方開催であった。中澤会長から、来年は地方開催を事業化することを考えており、講習会講師の教育なども含めて検討していきたいことが述べられた。各議題について多くの質問が上がり、盛会のうちに閉会となった。

本会への入会手続きについて(お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ① 本会ホームページ (<http://www.jart.jp>) から“新規入会はこちらから”をクリック
- ② 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL : 03-5405-3612 E-mail : info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

INFORMATION

2019年度 第1回 放射線被ばく相談員講習会 開催される

2019年7月14日(日)・15日(月・祝)の2日間、本会事務所講義室で放射線被ばく相談員講習会が開催され、全国から30人の方々が参加された。

最初に本会中澤会長より、放射線被ばく相談員育成制度の意義についてご講義いただいた。そして臨床心理士である塚野先生から被ばく相談における傾聴の重要性について、HSEリスク・シーキューブ 土屋先生からはリスク・コミュニケー



ションについて、産業医科大学 樺田先生からは内部被ばくを中心に福島の実状についてご講義いただいた。

今回、放射線被ばく相談員の認定取得後は、自施設で積極的に活動していただきたい分科会の方針もあり、自施設で積極的に被ばく相談を行っている小張総合病院 笹崎先生、聖隷沼津病院 勝浦先生に、自施設での被ばく相談窓口の具体的な運用について、また私から当院で行っている被ばく相談記録の書き方について紹介した。

本講習会では、座学以外に、模擬被ばく相談対応などを含む時間の傾聴訓練(ワーク)が、日本放射線カウンセリング学会傾聴訓練指導者により実施された。座学だけでは習得が困難な傾聴について学習するため、この傾聴訓練は毎回受講者から好評を得ている。

本セミナーの受講申し込みについては受講希望が殺到し、申し込みが困難だというご指摘を多く頂く。この現状を真摯に受け止め、改善策について検討中である。

(放射線被ばく相談員分科会 会長 小松裕司 [松下記念病院])

2019年度 第1回 放射線治療分科会 生涯教育セミナー 開催される

2019年6月15日(土)、ウイングプラザ(滋賀県栗東市)において放射線治療分科会主催の生涯教育セミナーを滋賀県放射線技師会と共催した。本年度は「乳癌術後放射線療法～病態把握(診察)から放射線治療の実際～」をテーマに掲げ、3県(滋賀・宮崎・新潟)でセミナーを開催する。今回はその第1回であった。当初50人ほどを見込んでいたが、関係各位のご協力により会場収容上限となる100人の方々にご応募を頂き、大変盛況なセミナーとなった。

講義内容は、初めに滋賀県立総合病院 山内先生に乳癌術後放射線療法の現状と展望について、われわれ技師が知っておくべき解剖などの基礎知識を織り交ぜながら、分かりやすくご講演いただいた。続いて、放射線治療分科会の太田氏(京都府立医科大学附属病院)および川守田会長(多根総合病院)から、シミュレーションやセットアップおよび治療計画について、基本的なことから問題症例を基にした具体的な講演が行われた。最後に、参加者より事前回答を頂いたアンケートをまとめ、われわれの日常業務に関するテーマについてグループディスカッションを行った。

6人でグループを作り、まずは自由に自己紹介を行って



川守田分科会会長のあいさつ



ディスカッション時の会場の様子

いただいた。当初、グループディスカッションに戸惑う参加者もいたが、後半には互いの考えや施設での取り組みの情報を交換し、活発な議論がされていた。またアンケートに記載された質問を紹介することで、各施設の問題点について共有認識を持つことができた。今回の結果を基に、さらに有意義なセミナーを提供できるように努めたい。

最後に、関係各位のご協力によって成功裏に終えることができた。この場を借りて感謝申し上げたい。

(放射線治療分科会委員 京都医療科学大学 霜村康平)

2019年度 第1回 JART-JIRA懇談会 開催される

2019年7月11日(木)午後4時より、本年度1回目となる一般社団法人日本画像医療システム工業会(JIRA)との懇談会が、本会事務所会議室で開催された。

本会からは中澤靖夫会長、佐野幹夫副会長、熊代正行副会長、小田正記理事、江田哲男理事、上島隆事務局長の6人が、JIRAからは新延晶雄会長、稲葉潔業務執行理事、浜原公幸法規・安全部会長、鍵谷昭典経済部会長、渡辺良事務局長、横田則昭総務部長の6人が出席して行われた。

本会からは、1) 令和2年度診療報酬改定については、7月



10日に厚生労働省保険局医療課長に提出した要望書の件、2) 第35回日本診療放射線技師学会大会のご協力については、機器展示のオープニングセレモニー・開会式・情報交換会へのJIRA会長の出席の要



請、3) 医療放射線の適正管理に関する検討会については、医政発0312第7号の医政局長通知の件と医療放射線安全管理責任者講習会の件、4) 医療機器の保守点検指針しんちよくに関する研究については、現在の進捗状況などを報告した。



JIRAからは、1) 最近のJIRA活動については、JIRA産業ビジョン2025の説明とX線診療室の漏えいX線線量測定マニュアルDVDの件、2) 経済部からは、第40回厚生労働省と医療機器業界の定期会合と特別償却制度の報告、3) 法規・安全部からは、医療機器行政に係る最近の動向についての報告があった。

なお、今回は2020年1月に開催予定である。

2019年度 第1回 JART-JSRT定期懇談会 開催される

2019年7月18日(木)午後3時より、公益社団法人日本放射線技術学会(JSRT)事務所において、JART-JSRT定期懇談会が開催された。この定期懇談会は年2回、定期的に本会とJSRTが連携協議や情報共有のために開催しているものである。本会からは中澤靖夫会長、佐野幹夫副会長、熊代正行副会長、中村勝理事、兄玉直樹理事、上島隆事務局長の6人、JSRTからは白石順二代表理事、奥田保男副代表理事、根岸徹副代表理事、坂本博理事、岩永秀幸理事、田中利恵理事、宮高陸事務局長の7人が出席した。

初めに、JSRTの新しい執行体制について紹介があった。

引き続き報告事項の中で、本会から令和2年度診療報酬改定への要望書提出について、第35回日本診療放射線技師学

術大会について、医療放射線の適正管理に関する検討会について、医療機器の保守点検指針に関する研究についておよび業務拡大の統一講習会について報告を行った。JSRTからは第13回JSRT-JART合同公開市民講座の進捗状況、第75回日本放射線技術学会総会学術大会報告、第47回日本放射線技術学会秋季学術大会のご協力について、今後の学術大会についておよび海外との交流事業について報告があった。

さらに2017年にまとめたJART-JSRT将来構想会議答申の実現化に向けて、両会が具体的に何が出来るか、活発な意見交換が行われ、ワーキンググループを設置し検討することになった。

今回は、2020年1月ごろに本会事務所で開催予定である。

2019年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会 (東京大会)報告記

公益社団法人日本診療放射線技師会 南関東地域理事
公益社団法人東京都診療放射線技師会 会長
大会長 篠原 健一



2019年6月29日(土)・30日(日)、一橋大学一橋講堂(東京都千代田区)において、「つながる医療 つなげる“和”~One for all, All for one~」をテーマに2019年度関東甲信越診療放射線技師学術大会(主催:日本診療放射線技師会・北関東地域/南関東地域)を開催しました(参加人数911人*一般市民51人を含む)。

「つながる」「つなげる」にチーム医療推進への思いを合わせ、手段・目的・理念となるさまざまな要素に“和”を重ねました。「調和」や「和む」など使われる“和”。日本古来の精神の一つでもある十七条憲法の「和をもって貴しと為す」、体裁の和ではなく、互いに認め合い理解し協力する“和”、そして「和=日本(人)の」という意味を込めました。サブタイトルについては、同じ2019年開催のラグビーワールドカップ日本大会にちなみ、(日本では)ラグビーの精神を表すとされる「One for all, All for one/一人は皆のために、皆は一人(一つの目的)のために」をチーム医療推進の思いに重ねました。

一般演題133演題(International session・学生セッションを含む)の他、教育講演、きめこまかな生涯教育学会編、テクニカルレクチャーなどを実施。特別講演「ラグビーワールドカップ2019がやってくる~One for all, All for one~」(ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長特別補佐 徳増浩司先生)、市民公開講座1「学ぶことは生きること~院内学級の子もたちが教えてくれた大切なこと~」(昭和大学附属病院院内学級担当 副島賢和先生)、市民公開講座2「動物の飼育・健康管理と動物園の楽しみ方」(上野動物園園長 福田豊先生)

など一般市民の皆さまにも好評でした。

閉会式での演題表彰では、北関東地域学術奨励賞「Exposure Indexによる自動露出制御不変性試験の検討」(埼玉県済生会川口総合病院 土田拓治氏)、南関東地域学術奨励賞「放射線部門管理システムを用いた腰椎撮影の最適化の評価」(山梨県立中央病院 日向勇人氏)、大会長賞(学生優秀演題)2題「プレストモーションにおける画像ゆがみの評価」(杏林大学 保健学部診療放射線技術学科 田中裕子さん)、「Whole-body DWIにおける定量解析を目的とした深層学習による領域抽出法の検討」(群馬県立県民健康科学大学 診療放射線学部 岩崎郁穂さん)、International session 優秀賞「Comparison of Radiation Dose and Image Quality of Built-in Dose Area Product and Moving Dose Area Product and Study on Necessity of Calibration Guidelines for Dose Area Product using NEMA Phantom in the Intervention」(Kyunghee University Hospital: Ji-An Choi氏)が表彰されました。

なお、本学術大会において、東京都診療放射線技師会と学術交流協定を締結しているソウル特別市放射線士会(SRTA)から安美燮会長はじめ10人が来日し、International sessionにおいて4題の発表がありました。

最後に、ご講演いただいた日本診療放射線技師会 中澤靖夫会長、南北関東地域各技師会の皆さま、白木実行委員長はじめ、東京都診療放射線技師会役員・実行委員に心より感謝、お礼を申し上げ、そして9月に同じ域内で開催される第35回日本診療放射線技師学術大会(埼玉大会)にもつながりつなげるよう、皆さまのご参加、ご協力をお願い申し上げます。



一般社団法人山梨県診療放射線技師会 創立70周年記念式典・祝賀会 開催報告

一般社団法人山梨県診療放射線技師会 会長 佐野 尚樹

2019年7月13日(土)、アーバンヴィラ古名屋ホテル(山梨県甲府市)において、山梨県診療放射線技師会の創立70周年を祝い、記念式典・記念講演・特別講演、ならびに記念祝賀会を開催しました。

本技師会は、戦後間もない1949(昭和24)年10月30日、県内の医療施設で放射線業務に携わる14人の技術者により「山梨県エックス線技師会」として創立されました。1969(昭和44)年に診療放射線技師法の改正に伴い「山梨県放射線技師会」に改名し、2001(平成13)年には社団法人の認可を受け「社団法人山梨県放射線技師会」を設立するに至りました。その後、2013(平成25)年には一般社団法人へ移行し、現在の210人の会員からなる「一般社団法人山梨県診療放射線技師会」として活動しております。

記念式典は厳かな雰囲気の中で始まり、山梨県副知事若林一紀氏、山梨県医師会 今井立史会長、日本診療放射線技師会 中澤靖夫会長からご祝辞を賜りました。続いて今回の70周年を記念し、山梨県より知事表彰者4人、福祉保健部長表彰者1人に授与式が執り行われました。また本会からも、会の発展にご尽力いただいた5人の方々に感謝状の贈呈が行われました。

式典終了後、記念講演として日本診療放射線技師会 中澤会長より「日本診療放射線技師会の現状と課題」と題して講演を頂きました。タスクシフトを含めた診療放



射線技師の活用、診療放射線技師法の抜本的改正、医療法改正に伴う医療放射線の適正管理など、今後の政策について分かりやすくお話いただきました。

続いて、特別講演として岐阜大学客員教授 加藤義人先生に「リニア時代の山梨県の地域づくり」と題して講演を頂きました。リニアが地域にもたらす効果と課題について、大変興味深いお話を頂きました。

記念祝賀会は、多くの歴代役員やOBの参加を頂き開催されました。南関東代表理事 東京都診療放射線技師会 篠原健一会長、日本医療機器販売協会代表 豊前貴子さまに来賓あいさつを頂いた後、本技師会の沿革の紹介、空手の演舞の余興などが披露され、楽しい親睦のひとときを過ごすことができました。



65歳以上の方の会費が8,000円になります!

第79回定時総会において「会費等納入規程」の改正があり、2019年度中に65歳を迎える会員、および65歳以上の会員の方の年会費が8,000円となります。次年度の会費請求から実施することになりましたので、お知らせ致します。

これに伴い、会費の終身免除(会費等納入規程第8条)は、5年間の猶予をもって2023年3月末日で終了致します。

なお、50年勤続表彰受賞者で35年以上継続している会員の方の年会費終身免除は、これまで通りです。

※会費の終身免除

第8条 25年または30年勤続表彰受賞者で25年以上継続して会員であり55歳以上の会員は、100,000円を本会に納付し、その旨を申請することにより、翌年度以降の会費は終身にわたって免除される。

INFORMATION

INFORMATION



第35回 日本診療放射線技師学術大会 埼玉への道

埼玉県診療放射線技師会 編集情報委員会より



何もない、わけではない

いよいよ2019年9月14日(土)から16日(月・祝)までの3日間、埼玉県さいたま市大宮区において第35回日本診療放射線技師学術大会が開催されます。さて、埼玉といえば皆さま何を思い浮かべるでしょうか？もちろん県内に名所・名物はあるものの、ミシュラン三つ星のように、宿泊してまで訪れるべきものと言われれば「何もないのでは…」と、言葉が詰まります。ある日、偶然見たTVのインタビューで『埼玉の良いところ』という質問に、一般の埼玉県民の方が「東京に近いところ」と言ってしまう始末です。

NN (Network Now) 連載企画では1~10シリーズにわたり「埼玉への道」を掲載してまいりましたが、大会Webサイトへも掲載しておりますので、埼玉へいらした際には、ぜひ観光の参考にさせていただければ幸いです。

～埼玉への道 掲載コンテンツ～

- 第1回：イントロダクション 何もない、わけではない
- 第2回：大宮という街
- 第3回：埼玉のB級グルメ&ソウルフード
- 第4回：秩父・長瀬へ行ってみよう
- 第5回：古墳→のぼうの城→陸王=行田市
- 第6回：埼玉の酒・うどん県2位の埼玉
- 第7回：小江戸「川越」、狭山茶「狭山・入間・所沢」
- 第8回：浦和vs大宮？+鋳物の町？「川口」、ネギ・煉瓦の町？「深谷」
- 第9回：そして大宮（大会場の周辺案内）
- 最終回：大会に向けて 一統・何もない、わけではないー

※2次元バーコードよりスマートフォンで閲覧できます！

<http://www.sart.jp/jcrt2019/nn/nn1.html>



おわびと訂正

Network Now 8月1日号・2ページ「第35回日本診療放射線技師学術大会プログラム」および4ページ「第35回日本診療放射線技師学術大会TOPICS」の中で、9月14日(土)第1会場で11時20分から招待講演に登壇されるマイケル・ワード氏の所属表記に誤りがありました。心よりおわび申し上げますとともに、以下の通り訂正させていただきます。

誤：ISRRT会長 マイケル・ワード

正：ISRRT元会長 マイケル・ワード

APOLOGY



第35回 The 35th
Japan Conference of Radiological Technologists(JCRT)

日本診療放射線技師学術大会

国民と共にチーム医療を推進しよう

Let's promote team medical care with the nation

彩の国から未来へ

From Sainokuni to the future

会期
Date

2019年9月14日(土)~16日(月・祝)
September 14(Sat) -16(Mon) , 2019

会場
Venue

大宮ソニックシティ
Omiya Sonic City

会長
President

中澤 靖夫 (公益社団法人 日本診療放射線技師会 会長)
Yasuo Nakazawa (Japan Association of Radiological Technologists)

大会長
Chairman

田中 宏 (公益社団法人 埼玉県診療放射線技師会 会長)
Hiroshi Tanaka (Saitama Association of Radiological Technologists)

主催
Host

公益社団法人日本診療放射線技師会
Japan Association of Radiological Technologists

共催
Cosponsor

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
Saitama Association of Radiological Technologists

後援
Support

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare
埼玉県
Saitama Prefecture
さいたま市
Saitama City
さいたま市教育委員会
Saitama City Board of Education

大会事務局
Secretary Office

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 埼玉県さいたま市北区宮原町2丁目51番39
TEL:048-664-2728 対応時間平日(月~金曜日) 9:00~15:00
Saitama Association of Radiological Technologists Saitama Prefecture Saitama City Kitaku Miyaharacho 2-51-39
Phone:+81-48-664-2728 Correspondence time Weekday (Monday - Friday) 9:00~15:00



無駄な知識



雑学…雑多な物事・方面にわたる、系統立っていない学問・知識（広辞苑）。多方面にわたるまとまりのない知識や学問。また学問とは関係のない雑多な知識（大辞泉）。

7月下旬のある日、学生から質問を受けました。「この部分は試験に出ますか?」。私は「重要な部分であれば試験に出ると思うけど、あなたはどう思うの?」と言ったところ、「無駄なことを覚えたくはありません。意味がないことに時間をかけたくありません」との返事が返ってきました。私はとても寂しい気持ちになりました。無駄な知識、意味がないなどの言葉をよく聞きます。若い頃、私自身もそう思っていたことを否定する気はありません。無駄な知識、意味がないとは、短期的に物事を捉えた場合の考え方です。しかし、長期的には物事の本質から完全に外れていることを思い知らされます。「多くの人に会い、そして多くの会話をし、本物を見極める目を養うこと、これが最も大切である」。亡くなった恩師の言葉です。

私は数多くの学会や研究会に参加し、可能な限り情報交換会や懇親会には参加するようにしています。それは、なるべく多くの人に会い、そして多くの会話をしたいからです。会話の内容などから相手の人柄や考え方を知り、この人であればいつか研究と一緒に進められるのではないかと、もしくは協力できるのではな

いかと考えるからです。会話の内容は専門外の内容が多く、たわいもない内容のことが多いのですが、その際にいつも痛感することは、専門外の知識こそ必要だということです。最後はいかに多くの雑学を知っているかです。たわいのない話から盛り上がり、いつしか将来の話になり、一緒にやっぴこう! という展開になることがいかに多いことか。無駄な知識が大活躍です。

本物を見極めるためには、本物を数多く知ることが大事です。美術館で絵画を眺め、博物館で歴史的な展示を見て、歌舞伎や能、オペラやミュージカルを鑑賞する。テレビや書籍ではなく、本物を体感することが、本物を見極める目につながります。芸術や歴史はテストには出ません。しかし、これらの知識は人間の幅を広げ、国際的にも共通の会話として活用できます。多くの外国人に会い多くの会話をすることで、人を見極める目も養えます。お金がないからそんなことはできないという人もいるでしょう。自己投資は最もリターン大きい投資といわれています。これを無駄と考えれば、大きなことを成し遂げることはできないでしょう。共通の無駄な知識から、新たな人間関係が生まれてくるのです。

10月から、いかに無駄な知識が大切か、講義の中に混ぜ込んでいきたいと思っています。
(文責：児玉直樹)

9月・10月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

■ 放射線サーベイ検査実習：	埼玉	9月14日(土)		
■ 超音波実技講習会「腹部領域」：	東京①	9月29日(日)	東京②	10月27日(日)
■ 画像等手術支援認定講習会：	奈良	9月29日(日)		
■ 医療放射線安全管理責任者講習会：	東京①	10月13日(日)	東京②	10月14日(月・祝)
■ 医療被ばく低減施設認定取得セミナー：	兵庫	10月20日(日)		
■ ナイトセミナー (Web同時配信)：	東京	10月21日(月)	愛知	10月21日(月)
	大阪	10月21日(月)		

ホームページ閲覧のお願い

INFORMATION

「業務拡大に伴う統一講習会」および「診療放射線技師基礎技術講習」の開催日程につきましては、ホームページで随時更新しておりますので、そちらをご参照ください。

- 「業務拡大に伴う統一講習会」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/schedule.html
- 「診療放射線技師基礎技術講習」開催日程：www.jart.jp/activity/lifelong_study/ib0rgt0000004api.html

事務所
案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。
ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日（7月13日）および年末年始（12月29日～1月3日）は執務致しません。